



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

| | |
|------------|---|
| Title | 「オリジナル曲とカバー曲」：歌における日本語と英語の違い(fulltext) |
| Author(s) | 水本,肇 |
| Citation | 国際中等教育研究：東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要(7): 61-70 |
| Issue Date | 2014-03 |
| URL | http://hdl.handle.net/2309/137053 |
| Publisher | 東京学芸大学附属国際中等教育学校 |
| Rights | |

「オリジナル曲とカバー曲」

～歌における日本語と英語の違い～

Originals and Remakes: Difference between Japanese and English Language as Seen in Songs

音楽科 水本 肇

要旨

情報メディアが発達し、広く普及された今日において、様々な国やジャンルの音楽が身近となるだけでなく外出中でも携帯やウォークマンなどで音楽を聞ける時代となった。

その中で、外国の曲が日本語にカバー（アレンジ）された曲や、逆に日本の曲が外国語にカバーされた曲を耳にすることも増えた。しかし、こうした曲には言語の特性や文法の違いなどによって、歌詞の増減や言葉の順番、リズムや和音などの改変が起こるといった問題がある。このことをよく理解しないままカバー曲に親しんでいる人も少なくない。

以上のことを踏まえ、本校附属国際中等教育学校音楽科では、オリジナルの曲と他言語（主に日本語と英語）にカバーされた曲の両方を授業で取り上げ、比較することで、言語的な特徴の違いや音楽的な感性の違いへの理解を深められると考え、教科の取り組みとして実践している。

1. はじめに

附属国際中等教育学校では「国際社会で“いきる”力を育てる」というテーマを学校研究の主軸とし、異文化に対して寛容で耐性があり、進展する内外の国際化の中で活躍することのできる生徒を育てることを目標としている。そのことを受け、本校音楽科では外国語（主に英語）を扱った授業の実践や、多声部の合唱、少人数でのアンサンブル活動を主に扱っている。今回は、教科の取り組みとしておこなってきた、カバー（アレンジ）曲とそのオリジナル曲の比較・分析についての考察を紹介する。

2. 教科としてのねらい

情報伝達の技術が発達し、様々な情報がメディアを通じて身近になった今日において、様々な国やジャンルの音楽を聞けるようになった。その中で、外国語の曲をカバーした日本のアーティストによる曲や、逆に日本語の曲を外国語でカバーされた曲を耳にすることも増えた。両者とも、オリジナルのものに対して表現が大きく変化していたり、歌詞の意味も大きく変化、あるいは加えられていたりする場合がある。言語の特性や文法の違いにより、当然起こることではあるが、それを良く理解しないままカバー曲に親しんでいる人も少なくない。

音楽科では、そういった理由から、主に英語が使われている楽曲と日本語が使われている楽曲をバランスよく授業で取り上げることで、両者の音楽的特徴や音楽的感性の理解を深められると考えている。

大きなねらいとしては次の2点となる。

- ・ 日本語と英語の文法の違いによる言葉、意味伝達のズレへの理解
- ・ 英語の発音（子音と母音）と言葉の抑揚の理解

この単元の **Unit Question** は「価値あるものを他者に理解してもらうには」とし、**Guiding Question** は「オリジナル曲をカバーすることで、どのようなメリットやデメリットが生じるだろうか」や、「オリジナル曲の良さを伝えるにはどのような工夫ができるだろうか」としている。

Unit Question にあるように、「価値あるものを他者に理解してもらうため」の、自分なりの工夫や手法を考え、実践することが単元の達成目標となる。

3. 研究内容

(1) 使用教材

| 学年 | オリジナル曲 | カバー（アレンジ）曲 |
|----------|--|--|
| 中等 1年 | 永遠のポップス第2巻 全音楽譜出版社 Peter, Paul and, Mary 「Puff」（英語）混声2部 | 中学生の音楽1 教育芸術者 歌詞：芙龍明子 編曲：飯沼信義 「パフ」（日本語）混声2部 |
| 中等 2年 | 永遠のポップス第1巻 全音楽譜出版社 Bill Danoff/Taffy Nirvert/John Denver 「Take Me Home Country Road」（英語） 混声2部 | 歌手：本名陽子 編曲：野見祐二 スタジオジブリ「耳をすませば」より 「カントリー・ロード」（日本語） |
| 中等 4年 | 桑田佳祐作品集 東京音楽書院 作詞・作曲：桑田佳祐 「いとしのエリー」（日本語）単旋律 | Ray Charles 「Ellie, My Love」（英語）混声5部（水本編曲） |

使用教材一覧（左：オリジナル曲 右：カバー曲）

いずれの学年にもオリジナル曲と対になるカバー曲の両方を学習する。互いの「歌詞」や「リズム」、「フレーズ」、「和音（コード）」などに、どのような違いがあるか確認をしていく。

(2) 日本語と英語の特性

| | |
|---|---|
| Puff the magic dragon, Lived by the sea and frolicked in the autumn mist in the land called <u>Ho-nah-Lee</u> . Little Jackie-Paper loved that rascal Puff <u>and brought him strings and sealing wax</u> <u>and other fancy stuff</u> , oh. | パフ the magic dragon 暮らしてた 低く秋の霧たなびく入り江 少年ジャッキーは <u>友達</u> で <u>毎日仲良く遊んでいた</u> オー |
|---|---|

図1 「Puff」の歌詞の比較（左：オリジナル英語歌詞 右：日本語訳詞）

①情報量の違い

上記の「Puff」の歌詞（1番のみ）で、オリジナルには存在しており、カバーされたほうには存在しない歌詞がある。逆に、日本語のほうには意識されて新しく加わった歌詞もある。具体的に言えば、オリジナルの英語歌詞には「Ho-nah-Lee」や「strings」、「sealing wax」などの言葉があるのに対して、日本語歌詞のほうにはそれらがなく、「毎日仲良く遊んでいた」という意識になっている。

このようなことが起こる原因の一つとして次のようにまとめる。

歌において、多くの場合

日本語は1つの音符に対して、ひらがなやカタカナが1文字（1音）

英語は1つの音符に対して1単語から1音節分入る。

（英語の場合は複数音節ある単語に関しては、音節分の音符をあてがう）

英語には1音節の単語も多くあり、音符1つに対して1単語入る場合も多い。そのため日本語と英語（外国語）の間には、メロディーに乗せられる言葉の量に絶対的な差がある。つまり、同じメロディー（リズム）に言葉をあてがった場合、必然的に情報量は、**日本語<英語**ということになる。英語から日本語にカバーするとき、メロディー（リズム）に合うようにオリジナルの歌詞を省略する、あるいは意識せざるを得なく、逆に日本語から英語にカバーするときは、言葉を足す必要がある。

②文法の違いによる語順の違い

| | | |
|----|-------|--------|
| I | Love | Cookie |
| S | V | O |
| 私は | クッキーが | 好き |
| S | O | V |

図2

日本語と英語の文法の違いについて簡単に触れる。

[図2]のような例で示すと、英語の第3文型はS（主語）→V（動詞）→O（目的語）という順番であるのに対し、日本語は、S（主語）→O（目的語）→V（動詞）という順番となる。

つまり、同じ意味の文であっても日本語と英語とでは語順が異なり、歌詞においても例外ではない（海外の歌曲の場合、文法を意図的に無視するときもある）。

③メロディーへの影響

Puff the ma - gic dra - gon lived by — the sea and

5 fro-licked in — the au tumn mist — in a land called Ho-nah-Lee. —

図3



図 4

それでは実際に歌うとどうなるのか、「Puff」の例を紹介する。

オリジナルの「Puff」のメロディーラインを見たときに、最もメロディーが盛り上がる部分に注目する。[図3]にあるように、曲中の最高音で音を長く伸ばしている7小節目の3拍目から8小節目の部分がメロディーの頂点と考える。これは日本語にカバーされた「パフ」にも共通しているが（[図4]参照）、オリジナルでは「Ho-nah-Lee」という架空の島の名前が歌われているのに対し、日本語では「たなびく入り江」の「入り江」が歌われている。この「入り江」という言葉の意味は、オリジナルの「Lived by the sea.」の部分である。オリジナルの作曲者は「Ho-nah-Lee」をメロディーの頂点として作っているため、日本語でカバーされた「パフ」では、意味の異なる言葉をメロディーの頂点として表現していることになる。

このように、文法の違いで歌詞の順番が変わってしまうことにより、本来歌われるべき歌詞とは異なる意味のものがメロディーで表現されてしまう。

日本語と英語では文法の特長上、必ずしも同じ意味の言葉を同じメロディー、同じタイミングで表現できるとは限らない。

（3）英語の発音（子音と母音）と抑揚

①語尾の子音

日本語で歌うときも、子音や母音、言葉の抑揚を意識するが、英語で歌うときは特に、語尾の子音を軽視してはいけない。

例えば「Take Me Home, Country Roads」のコーラス(サビ)において、「Country Roads」という歌詞があるが、この「Roads」の語尾である「ds」の発音を忘れがちである。楽譜に書かれてあるように母音の「oa」[ou]を指定された音価分を伸ばすが、その次の歌詞の手前で[ds]を発音しなければならない。そうしなければ、「Roa」[rou]という単語を歌うことになるからである。言葉の自然な抑揚を考えれば、語尾の子音は大きく発音する必要はないが、特に複数の人数で歌う場合は語尾の子音のタイミングを揃える必要がある。

日本語では、日常会話において「待つ」、「話す」などの単語の語尾を英語の子音のよう

に無声音で発音するが、歌においてはほとんどの場合、母音をしっかり発音する。しかし、近年では曲の中で会話のように（ラップ調ではなく）歌詞を歌う日本のアーティストもいる。

②言葉の抑揚

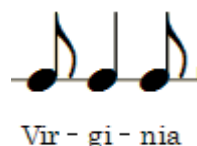


図 5



図 6

長母音や短母音はメロディー（リズム）に大きく影響している。例えば、「Take Me Home, Country Roads」に出てくる West Virginia の「Virginia」がわかりやすい。

この単語は日本語では「バージニア」となるが、英語では真ん中の「i」がアクセントであり、長母音である。それ以外は短母音であるので、発音をリズムで表すと[図5]のようになる。多くのポピュラーソングでは、長母音と短母音の長さがそのままリズムに反映されるため、自然な発音とうなるよう子音や母音の強弱に注意する必要がある。

また、文章単位で考えたときに、文の中でどの言葉が重要で強調されるべきかということも考える必要がある。前置詞の「to」や「from」は短く発音され、特に定冠詞の「the」、不定冠詞の「a/an」などは極端に短く発音される。意図的でない限り「the」や「a/an」に長い音譜があてがわれたり、正拍で長く伸ばしたりすることはなく、[図6]のように短くなることがほとんどである。

4. 具体的な取り組み

このような要素を、合唱、歌唱活動を通じて学習したのち、中等2年生では「Take Me Home, Country Roads」を日本語へアレンジさせる取り組みをさせている。

オリジナルの「Take Me Home, Country Road」（混声2部）とカバー曲の「カントリー・ロード」を学習したあと、生徒一人ひとりが「Take Me Home, Country Roads」を、強弱やテンポなどのアーティキュレーションも含めて、日本語へアレンジする課題を出す。そして、完成したものを一度提出させたのち、学級を男女混合の4グループに分け、さらにグループごとで「Take Me Home, Country Roads」を日本語へアレンジさせる。

グループの作業として、一人ひとりがアレンジしたものをグループで共有しながら、グループで一つの作品を作り上げる。作業が滞る場合は、指導者が適宜アドバイスやアレンジの提案をしている。

また、グループワークをする上で、以下の点を議論させる。

- ・ 歌詞中の名詞はカタカナで歌うか、あるいは英語のまま歌ったほうがいいのか
- ・ 歌詞は意識した方がいいのか、直訳のほうがいいのか
- ・ 元のリズムに対して、訳した日本語が上手く当てはまるか。当てはまらない場合はどのように音符を加えるか。

このように、グループでディスカッションをしながらアレンジを進める。

中間発表を経て修正を加えたのち、本発表では互いの発表を聞き合い、相互評価としてそれぞれの発表の売りどころや工夫していた点などをワークシートにまとめさせることが、最終ゴールとなる。

| グループ発表・演奏 評価シート | | |
|--|-----------------|-----------------|
| 年 組 番 氏名 _____ | | |
| 各グループの発表・演奏を聞いて、発表者の良かったところや工夫していた点、できていなかったところやまだ改善できるポイント、などを具体的に書きましょう。 | | |
| グループ | 良かったところや工夫していた点 | できていなかったところや改善点 |
| _____ <メンバー> | | |
| _____ <メンバー> | | |
| _____ <メンバー> | | |
| 自己評価 <メンバー> | | |

図7 相互評価シート

1-2

Take me home, Country roads

(カントリーロード)

John Denver

Cグループ

7-10 G 3-7 * 7.C-7.4.7.6.2 (6711)-ロッドンヤシク)と25
 7-10 G 3-7 * 7.C-7.4.7.6.2 (6711)-ロッドンヤシク)と25

1 G Em
 5 Al - most hea - ven, _____ West Vir - gi - nia, _____
 (mp) (有) 夢のさつし (有) わがふるさと)

9 D C G
 Blue Ridge Moun - tains, _____ Shen - an - do - ah Riv - er, _____
 (有) おもいだす なつかしきころ)

14 G Em
 Life is old there, _____ old - der than the - trees, _____
 (有) むかしの せうとこ)

18 D C G
 young - er than the moun - tains, _____ grow - in' like a breeze, _____ Coun - try Roads,
 (有) かぜとやまが (有) けさむるさつしロッドン

22 G D G
 ta - ke me home, _____ to the place, _____
 (有) おつち (有) やしき)

グループ作品例 (前半)

Handwritten musical score for "Country Roads" with Japanese lyrics and annotations.

27 I be long, West Vir - gi - nia, Mo un tain mem -

(あり あり あり)

32 ma, Ta - ke me home, Coun - try Roads,

(い 帰ろうよ カントリーロード)

38 I hear her voice in the mor - nin' hours, she calls - me the

(あり あり あり あり あり)

42 ra - dio re minds - me of my home far a - way and

(あり あり あり あり)

46 dri - vin' down the road - - I get a fee - lin' that I should have been home

(あり あり あり あり)

50 yes - ter - day yes - ter - day, Coun - try roads

(あり あり カントリーロード)

2

グループ作品例 (後半)

Abstract

In today's world of sophisticated and widespread information media, we have become familiar with various kinds of music from many countries. We can even listen to any kind of music while we are away from home, by using mobile phones and Walkman-type players.

Indeed, we often hear Japanese remakes of songs originally written in a foreign language or conversely, foreign remakes of songs originally written in Japanese. However, the different characteristics of languages, including grammatical structure, necessitate qualitative and quantitative adjustment of the lyrics, as well as modification of the rhythms and chords. Many listeners to those remakes are not aware of such changes.

Against this backdrop, the TGUISS music class compares both original songs and their remakes in other languages (mainly in Japanese and in English), in order to increase students' understanding of the underlying differences in language characteristics and musical sensitivity.